



平成 30 年 9 月 12 日

各 位

会 社 名：株式会社 S K I Y A K I  
代表者名：代表取締役社長 宮瀬 卓也  
(コード番号：3995 東証マザーズ)  
問合せ先：取締役 酒井 真也  
(TEL. 03-5428-8378)

### 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 9 月 12 日開催の取締役会において、下記のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 30 年 3 月 15 日に公表いたしました平成 31 年 1 月期（自 平成 30 年 2 月 1 日 至 平成 31 年 1 月 31 日）の業績予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 通期連結業績予想数値の修正（平成30年2月1日～平成31年1月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 3,075	百万円 300	百万円 307	百万円 206	円 銭 19.18
今回修正予想（B）	3,756	111	117	41	3.85
増減額（B－A）	680	△188	△190	△164	－
増減率（％）	22.1	△62.8	△61.7	△79.9	－
（ご参考）前期実績 （平成30年1月期）	2,487	242	216	181	19.05

（注）当社は、平成30年8月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。平成30年1月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

#### 2. 修正の理由

##### （売上高）

前回発表予想（平成 30 年 3 月 15 日）に対し、ファンクラブ・ファンサイト（FC）サービスにおける有料会員数が堅調に増加していることに加え、前回予想数値に含まれていなかった株式会社 MS エンタテインメント・プランニング（平成 30 年 5 月より連結子会社化）におけるライブ制作収入が 750 百万円程度、株式会社 SKIYAKI APPS における売上高が 66 百万円程度寄与することが見込まれます。

一方で、アーティストグッズ等のマーチャндаイジング及び電子商取引（EC）サービスについて、平成 31 年 1 月期第 2 四半期連結累計期間における売上高が大型商品の出荷減少等により前年同期比で減少しており、通期においても前回予想数値比で 164 百万円（22.9%）程度減少することが見込まれます。

これらの結果、売上高は 680 百万円増加する見込みであります。

##### （営業利益）

連結子会社の増加に伴い、株式会社 MS エンタテインメント・プランニングにおけるライブ制作原価が

634 百万円程度、株式会社 SKIYAKI APPS におけるサービス提供原価が 27 百万円程度それぞれ発生することが見込まれます。

また、EC サービスに係る外的要因として、昨今の宅配業者による配送費の大幅な値上げの影響により、当社が倉庫物流業務の委託先企業に対して支払う商品配送費用等が急激かつ大幅に値上がりしていることから、売上高は減少するものの、売上原価である倉庫物流費用は前回予想と概ね同額が発生することが予想され、その他 FC サービスに係るロイヤリティの増加 62 百万円及び労務費として売上原価に計上するシステム開発人件費の増加 22 百万円等を含め、売上原価は前回予想数値比で 761 百万円増加し、売上総利益は 80 百万円減少する見込みであります。

当該売上総利益の減少に加えて、将来の成長に向けた積極的な M&A の実施に伴い、平成 30 年 5 月に連結子会社となった株式会社 MS エンタテインメント・プランニング、同年 6 月に持分法適用関連会社となった株式会社ピーリンク及び同年 7 月に連結子会社となった株式会社 SKIYAKI APPS の各社への投資に係る財務デュー・デリジェンス費用、仲介手数料及びのれん償却額等の投資関連費用（販売費及び一般管理費）が発生しており、営業利益の減少要因となっております。当初の業績予想時点では、M&A の実施に伴う費用は軽微である見込みであり、予想数値に織り込んでいなかったものの、グループ全体の成長を一層加速させるために、相応のコストをかけてでも事業上のシナジーが見込まれる企業への投資を実行すべきという経営方針に転換したことで、実際は想定以上の金額規模で投資関連費用が発生しました。また、現在計画している他の企業への投資が進展した場合、平成 31 年 1 月期第 3 四半期連結会計期間以降においても、当該投資関連費用が相当程度発生する可能性があります。

その他に、連結子会社の増加に伴う人件費及び経費の増加等により、販売費及び一般管理費は前回予想数値比で 107 百万円増加し、営業利益は 188 百万円減少する見込みであります。

#### （経常利益）

関連会社である株式会社ピーリンクの持分法による投資利益が発生する一方で、前回予想数値に含まれていた貸倒引当金戻入額が実際には発生しなくなったため、営業外収益は前回予想数値比で 0 百万円減少する見込みであり、上記営業利益の減少と合わせて、経常利益は前回予想数値比で 190 百万円減少する見込みであります。

#### （税金等調整前当期純利益及び親会社株主に帰属する当期純利益）

平成 31 年 1 月期第 2 四半期連結会計期間において、連結子会社の株式取得時に計上したのれんに係る減損損失 18 百万円及び投資有価証券評価損 17 百万円を特別損失に計上したため、税金等調整前当期純利益が 35 百万円減少しており、課税所得の減少に伴う法人税等の減少を考慮しても、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想数値比で 164 百万円減少する見込みであります。

以上より、平成 31 年 1 月期の通期連結業績予想について、売上高 3,756 百万円、営業利益 111 百万円、経常利益 117 百万円、親会社株式に帰属する当期純利益 41 百万円に修正いたします。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、今後様々な要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

以 上